

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム

地域力でつくる 支えあいのまち

～人と人とのつながりで 困りごとを解決しよう!～

平成29年7月1日(土)

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム

つながる
墨田区

地域力でつくる 支えあいのまち

～人と人とのつながりで
困りごとを解決しよう!～

「ボランティア団体の紹介コーナー」
「地域活動拠点の紹介コーナー」
もあります。

平成29年7月1日(土)
13:00～16:00 受付時間12:00～

すみだリバーサイドホール
墨田区吾妻橋1-23-20 (墨田区役所に隣接)

●プログラム

13:00	オープニング
13:10	全体会
13:30	分科会 (内容は裏面)
15:30	発表会
16:00	エンディング

参加申込み

所属・氏名を裏面の参加申込書、あるいは電話にて6月28日(水)までに下記申し込み先へ
※当日参加も可能ですが、準備の都合上あらかじめお申し込みください。

申込先

墨田区福祉保健部厚生課
☎ 03-5608-1163 FAX 03-5608-6403
すみだボランティアセンター
☎ 03-3612-2940 FAX 03-3610-0294

●主催● すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会 墨田区 社会福祉法人墨田区社会福祉協議会

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム プログラム

13:00

■ オープニング

13:10

■ 全体会+分科会+発表会

13:30

○ 地域の中にはこんなことで困っている人がいる！

今、地域の中では様々なことで困っている人がいます。
ここでは、全体で課題を共有しましょう。

13:30

○ 分科会

様々な困りごとについて意見交換しましょう。

15:20

地域の力、ボランティアの力で解決できることを分科会に分かれて探ります。

①) 地域の居場所を支えるボランティア
～地域の拠点でみんなを笑顔に～

少子高齢化、世帯の核家族化・単身化が急速に進展し、地域の問題が多くなってきている今、何らかの手助けを必要とする方を支えあい、助け合う地域の活動が注目されています。
小地域福祉活動、ふれあいサロン、地域の拠点づくりをしているプラットフォーム事業など、いろいろな形で行われている地域での支えあいを紹介するとともに、参加者の皆さんとの意見交換を予定しています。
地域での見守り活動を実践したいと思っている方、実践はしているけど、他の実践している方の話を聞いてみたいという方、自分からはできないけどお手伝いをしたいと思っている方など、ぜひご参加ください。



②) 子どもたちの育ちを支えるボランティア
～子育て拠点で困りごと解決！～

すべての子育て家庭を応援するために、地域には様々な子育て支援の拠点が、地域の皆さん、学生の方々などたくさんのボランティアさんによって支えられています。
子育て拠点とボランティアさんの活躍について紹介するとともに、参加者の皆さんとの意見交換を予定していますので、子育て中の方、地域で子育ての応援をしたいと思っている方の参加をお待ちしています。



③) 新しい私が始まるボランティア
～ボランティア入門編～

一言でボランティアといっても、個人で活躍している方、サークル活動で力を発揮している方など形は様々です。個人でできる福祉施設でのボランティアでも、洗濯物を畳む、将棋や囲碁のお相手をするなど、多岐にわたっています。
様々なボランティアの紹介と、参加者の皆さんとの意見交換を予定していますので、余暇に地域活動をしてみたい方、退職後に何をやるかと考えている方、この機会にボランティアを考えてみませんか。



④) 住み慣れた地域での暮らしを支えるボランティア
～高齢の方も、障害のある方も安心して暮らし続けるために～

同じ地域に暮らす方が、認知症の方や障害のある方の権利や財産を保護し支える「市民後見人」や日常生活に不安がある方を支える「地域福祉権利擁護事業」などについてご紹介します。
参加者の皆さんとの意見交換も予定しているので、市民後見人の活動に興味のある方、住み慣れた地域で社会貢献してみたいという方はぜひお越しください。



15:30

○ 発表会 地域力で作る 支えあいのまち

16:00

分科会で話し合ったことを発表しましょう。

他の分科会の話聞くことで、気が付かなかったヒントが見つかるかもしれません。

16:00

■ エンディング

参加申込書

●以下の内容にご記入いただき、6月28日までにFAXまたはEメールでお申込みください。
●当日参加も受け付けます。

名前	所属団体名（個人の方は記入しなくて結構です）	
参加希望の分科会に ○をつけてください	①地域の居場所を支えるボランティア	②子どもたちの育ちを支えるボランティア
	③新しい私が始まるボランティア	④住み慣れた地域での暮らしを支えるボランティア
●一時保育（1歳～就学前まで）・手話通訳を希望する場合は6月23日までに申し込みください。		
どちらかに ○をつけてください	①一時保育希望（お子さんの年齢 才）	②手話通訳希望

墨田区福祉保健部厚生課

☎ 03-5608-1163 FAX 03-5608-6403
Eメール KOUSEI@city.sumida.lg.jp

すみだボランティアセンター

☎ 03-3612-2940 FAX 03-3610-0294
Eメール vc@sumida-syakyo.or.jp

第7回すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムが7月1日に開催されました

■フォーラム概要

1 趣旨

墨田区における地域福祉の推進とボランティア活動への参加促進を図るため、民生・児童委員、ボランティアグループ活動者、小地域福祉活動参加者、福祉施設・福祉事業者など地域福祉とボランティア活動の関係者や活動に関心を持つ者等が一堂に会し、地域福祉・ボランティア活動について一緒に学び、考え、交流し、広く活動への参加を呼びかける。

今年度は「地域力でつくる 支えあいのまち ～人と人とのつながりで 困りごとを解決しよう～」をテーマとした。

2 日時

平成29年7月1日（土）13時から16時まで

3 場所

すみだリバーサイドホール

4 内容

(1) 全体会

「地域の中にはこんなことで困っている人がいる」

(2) 分科会

- 1 地域の居場所を支えるボランティア ～地域の拠点でみんなを笑顔に～
- 2 子どもたちの育ちを支えるボランティア ～子育て拠点で困りごと解決！～
- 3 新しい私が始まるボランティア ～ボランティア入門編～
- 4 住み慣れた地域での暮らしを支えるボランティア
～高齢の方も、障害のある方も安心して暮らし続けるために～

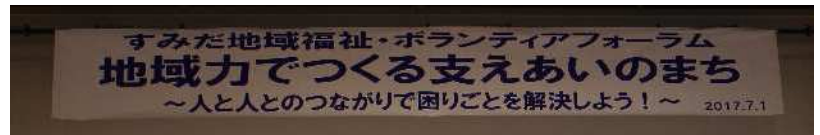
(3) 発表会「地域力でつくる 支えあいのまち」

5 主催

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会、
墨田区、墨田区社会福祉協議会

6 来場者数

約160名（関係者含む）



■ 司会者紹介

今年度は実行委員の五十嵐委員が司会者でした。



■ 開会挨拶・開催挨拶

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催にあたり、山本亨墨田区長、西原社会福祉協議会会長、鎌形実行委員長から主催者の挨拶がありました。



■ 山本区長の開会挨拶の様子



■ 西原会長の挨拶の様子



■ 鎌形実行委員長の挨拶の様子

■ 全体会 「地域の中にはこんなことで困っている人がいる」

今、地域の中ではさまざまなことで困っている人がいます。

ここでは、分科会ごとの課題を全体で共有するために、朗読による問題提起をしました。

コーディネーターは KT 福祉研究所主任研究員の静間宏治様に、朗読は、すみだボランティアセンターに登録している朗読サークル「くさぶえ」と「みらい」の皆様にご協力いただきました。



■ コーディネーターの静間様



■ 「みらい」の皆さん



■ 「くさぶえ」の皆さん

朗読と分科会の紹介

○ 第1分科会 地域の居場所を支えるボランティア

第1分科会は「サロンを運営している方たちのお話を聞いて、居場所づくりとボランティアについて考える」という内容であることを「地域の行事は参加者が固定している」「家にこもりがちになってしまった人がいる」といった課題を用いて、地域の防災訓練が終わった様子から紹介しました。

最近、地域の防災訓練やボランティアをやっている方の顔ぶれが同じになっているところが多いようです。

墨田区で盛んにおこなわれているふれあいサロンなども、メンバーが固定化してきています。ぜひ、若い方など、新しい方たちにも参加してほしいところです。



高齢の方、障害をお持ちの方、子育て中の方の居場所づくりということが大切となってきている今、それを支えてくれるボランティアも必要となっています。



○ 第2分科会 子どもたちの育ちを支えるボランティア



第2分科会は、「子育てをめぐる問題と、その解決策を考える」という内容であることを、子育てに行き詰ってしまい不安になっている母親の話、放課後いつもひとりで公園等にいる子どもの様子など、子どもに関わる心配事から紹介しました。

昔であれば多世代が同じ家で暮らし、たくさんの人で子どもを育てていましたが、現在は核家族化が進み、「子育て」は「孤育て」となっています。こんな状況の中で、どんな子育て支援ができるのでしょうか。



○ 第3分科会 新しい私が始まるボランティア

第3分科会は「ボランティア入門編」として、「第1歩を踏み出そう」という内容であるということを、定年退職を控えて、これから新しくボランティアを始めてみようという人たちの会話から、紹介しました。





人に何かを教えたり、新しい人とつながることで新しい自分を発見することができることもあります。

ボランティアを始めるきっかけづくりにしましょう。

○ 第4分科会 住み慣れた地域での暮らしを支えるボランティア



第4分科会は、「成年後見制度と各地で期待と注目を集める市民後見人について取り上げる」という内容を、近所の高齢者を心配しながらも、自分自身の将来も心配している方たちの会話から紹介しました。

成年後見制度は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守り、生活を支えると言った制度です。

以前は親族や弁護士などの専門家が選任されていましたが、一人暮らしの高齢者等が増えるなどの要因もあり、不足するようになりました。制度を学んで何ができるのかを皆さんと考えます。



■全体の様子

■分科会

第1分科会 地域の居場所を支えるボランティア ～地域の拠点でみんなを笑顔に～

担当 墨田区社会福祉協議会 地域福祉活動担当 【参加人数 38人】

【概要】

墨田区社会福祉協議会から小地域福祉活動とプラットフォーム事業についての説明がありました。その後、地域の中で、ふれあいサロンを実践している方と、社会福祉協議会のプラットフォーム事業でボランティアをしている方に活動の報告をしていただきました。



その後、グループに分かれ「このグループでサロンをつくるとしたらどんなサロンをつくりませんか」といテーマで意見交換をしました。その中で「どんな人来てほしいか」「自分はどんなことができるか」といったことを題材とし話が進みましたが、グループによっては、広報はどのようにしたらいいかとか、新しく引っ越してきた方を呼ぶにはどうしたらよいかなど、話し合いが深まったところもありました。

【内容】

○ 地域の拠点としての小地域福祉活動とプラットフォームについての概要説明

小地域福祉活動は住民が主体的に行う「地域の支え合い」の総称で、それぞれの地域で、自分たちができる範囲で福祉活動を行っていきこうというものである。目標は今あるつながりが5年後、10年後にもお互いに支えあうことができるようにすることである。ゆるやかな見守りと支え合いを歩ける（未加入者も含めた町会・自治会）範囲で行い、現在支える立場の人が支えられる立場になることも含め、次世代の地域活動者を見つけていくことが必要である。



具体的な活動は、「見守り・声かけ」「家事援助」「戸別訪問」「交流行事」「ふれあいサロン」と大きく5つに分類でき、地域にあった内容を住民が選択して行っていくことになる。

プラットフォームは 誰でも気軽に交流できる場として、町会・自治会よりも広い範囲で住民、地域活動者同士が集い、情報交換を行うことができる場所で、困り事があれば社会福祉協議会の職員に直接相談できる拠点である。範囲を広くすることで、小地域内ではできない相談ができた、交流に参加しやすくなる人もいる。

現在、区の北部(京島)、南部(太平)に1か所ずつ開設されている。

○ 実践者からの報告

寄り会い処石二 田中裕子氏(民生委員・児童委員)

町会の老人会からの要望で、ボランティアを回覧板で募るところからスタートした。集まった18名で準備を始め、社協やみまもり相談室からの助言を受けて、町会会館でオープンできるまでに1年かかった。スタッフ自身も楽しんでボランティアができていく様子で、スタッフ間の協力や他団体からの協力で乗り越えられたこともあった。回を重ねるごとに発見することも多く、講師を呼んで講演を聞いたりもしている。民生委員として、今後は近所づきあいが少ない方の参加を焦らずに増やしていきたい。

キラキラ茶家 佐藤信子氏、鈴木貞子氏

京島の橘銀座商店街は、車どおりが少なく立ち話がしやすいところである。キラキラ茶家は外から何をしているのか見えて入りやすい雰囲気だと思う。自分も楽しむ(利用する)側として参加していたが、いつの間にか主催する側になっていた。

ここはメニューが決まっていないので、老若男女を問わず、今日(今)そこに集まっている人同士で各自が自由に過ごしている。おしゃべりや折り紙を始めてみたり、お茶を飲んでただ他の皆さんを見ているのが楽しいという人まで様々な参加の形があり、そこがいいところだと思っている。

○ グループワーク「みんなでサロンをつくるとしたら」

当日の席で6グループになり、サロンをつくる過程をグループワークで行った。

まず、各自が「どんな人に来てほしいか(ターゲットの設定)」

「自分にはどんなことができるか(迎えるための工夫)」の2点を付箋に書き出し(5分)、自己紹介(10分)をしたあとで、付箋をもとに意見を出し合い、検討した。

その結果を2つのグループが発表した。



○ 発表

A 「どんな人に来てほしいか(ターゲットの設定)」

- ・家に閉じこもりがちな方
- ・子どもや若い子育て世代
- ・活動者として特技がある人

「自分にはどんなことができるか(迎えるための工夫)」

- ・話し相手になる
- ・マッサージをする
- ・体操をする
- ・絵本・紙芝居を読む。子どもにやってもらうのもよい。
- ・広報の方法の検討



B 「どんな人に来てほしいか(ターゲットの設定)」

- ・子ども
- ・リタイアした人
- ・一人暮らしの人
- ・今日何をしようか考えているような人

「自分にはどんなことができるか(迎えるための工夫)」

- ・設立に向けての交渉
- ・傾聴
- ・子供の遊び相手
- ・設営から計画

【まとめ】

今日の短時間で生まれた、初めて会った人とのつながり、考えられたことを大切にしてほしい。ぜひ、プラットフォームなども活用していただきたい。

第2分科会 子どもたちの育ちを支えるボランティア ～子育て拠点で困りごと解決！～

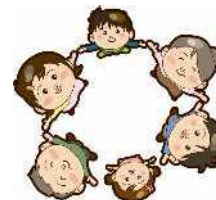
担当 東京都城東地区地域福祉施設協議会（東地協）児童部会 【参加人数 23人】

【概要】

冒頭に、「子育てのこまり事～子育て中の保護者として、子育てステーションの職員として～」というテーマで「子育てステーションこだち」のパート職員の方に、子育て中の保護者としての立場と、子育てステーションの職員としての立場で、報告をいただきました。

その後、「地域の中で子育てをしにくくしている要因」を課題とし、対象を『小学生』と『就学前』にわけ、それぞれ2つずつのグループでディスカッションをしました。

その中では、マンションで子育てをしている家族の孤立や子育て関連情報が届いていない現状、子育て世代を応援したいと思っけてもどのようにアプローチして良いかわからないという先輩世代の声が出されました。また小学校・学童クラブに進級する際の保護者の不安や、高齢者世代と子どもたちが長期的に関わることが健全育成の観点からも大切であることなどが語られました。こうした議論をふまえて、より一層この墨田の地域において、子育て中の方と地域で子育ての応援をしたいと思っけているの方々による支えあいが深まることを願い分科会からのアピールをとりまとめました。



【内容】

○報告

子育てステーション「こだち」は一時預かり、定期保育をやっているほか、子育てに関する相談も受けている。自分の子どもを連れて働けたのでとても助かった。母親が働きやすい環境を作るため、みんなで相談している。

○ディスカッション

【小学生Aグループ】

■子どもの居場所

学童に行っていない子や、学童が終わった後一人で過ごす時間の多い子が多くいる。ボランティアや地域の人に関わることで改善させることができるのではないかな。

■学童クラブの重要性

現在取り上げられている待機児童の問題が、数年後に学童待機の問題として表出する。働く世帯に合わせて学童のあり方を見直すべき（18時まで子を迎えにいくことができる親がどれだけいるかな等）。

■地域交流

働く世帯が多くなりにつれ、手間をかけないファストフードや冷凍食品を食べる機会が増えてる。子供の孤食等の問題を地域で解決することはできないかな。（食育の必要性）

【小学生Bグループ】

■格差の問題

放課後の過ごし方に格差が生じてる（豊かな子は習い事、貧しい子は一人で過ごす）貧しい子の受け皿が必要である。

■高齢者との交流

小学生と子や孫がいない高齢者が交流できる場所があるとよい。

■放課後スクール

地域の人学校に入っていくことで、学童が抱える場所や人員の問題を緩和させることができるのではないかな。



【就学前Cグループ】

■つなぎ目

子育ての「支援を受けたい人」とボランティアなど「支援をしたい人」とのつなぎ目が必要。
相互の紹介ができるつなぎ目の拠点を作り、それをうまくPRできるといいのではないか。

【就学前Dグループ】

■困ったときに預けられる場所

預けられる場所があるにも関わらず、知らない人が多くいる。

子育て世帯に対し十分に情報提供していく必要があると感じる。



■待機児童

専門的に働く人が不足している中で、地域の中で一時的に預かる人を増やしていくことができればよい。他には施設について基準等のハードルを低くするなど、制度を変えていく必要があるのではないか。

○講評

- 墨田区は、戦後の社会福祉事業発祥の地である。当時活躍した民間社会福祉事業者が現在の社会を見たらどう思うか。相対的貧困率、孤食等様々な問題があるが、対応する側が縦割りになりすぎているため、「横」の連携やつながりが必要である。(文花児童館 川島氏)
- 問題を局所的に見るのではなく、今回のように様々な立場の人が集まって議論することで初めて全体の実態が見えてくる。子どもの遊び・自由を保障するという視点に立って、まずは問題の実態を把握しようとするのが大切である。(興望館 野原氏)

第2分科会からのアピール「地域で支える子どもたちの育ちに向けて」

私たちは

1. 子育てをしている方と地域で子育てを応援したいと思っている方たちの「つながる場」がこれまで以上に広がることで、ますます子育てに暖かい、すみだのまちになることを願います。
2. 子育てをしている方同士と、高齢者を含む子育ての先輩の方とが交流することで、相互のコミュニケーションが深まり、必要な情報が行き交うことで、保護者にとって子育てしやすい地域づくりを推進します。
3. 地域の保育園の拡充を応援すると共に、これからより一層必要になる学童クラブが十分に確保され、地域の子どもにとって居心地が良い放課後の居場所として促進されることを願っています。
4. 墨田区内の子育てに関わる施設（児童館・コミュニティ会館、保育園・幼稚園、子育て広場・子育てステーション、その他関連諸機関）が、これからも多様な世代が関わり合い支え合う拠点となり、乳幼児期から思春期まで自分らしく育つことができるよう、見守り続けられるための連携協力をより一層進めていきます。

第7回すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム分科会2 参加者一同

2017年7月1日於：すみだリバーサイドホール

第3分科会 新しいわたしがはじまるボランティア ～ボランティア入門編～

担当 墨田区社会福祉協議会 すみだボランティアセンター【参加人数 21人】

【概要】

ボランティア未経験者やベテランの方が混在していました。ある程度経験等を踏まえて3つのグループに分かれて「新しいボランティア活動を始めるには」「ボランティアをする上での課題」などをテーマにディスカッションをしました。

【内容】

○グループA

構成はボランティア経験者6人、未経験者1人。経験者の活動内容は手話講習会、点訳など。

- 公園や買い物等に行く際、一人だと心細い。何かいい支援はないか。
→社協ハートライン21事業がある。有償で家事支援が受けられる。
また30分程度のお手伝いをするミニサポート事業もある。家具を動かしたり、電球を交換したり等専門家でなくてもできる範囲で支援する。
- 新しいボランティア活動を始めるために
昔はみんながボランティアだった。ご近所同士で挨拶をし、困ったときに助け合っていた。
引きこもりや孤食などの問題がある現代で、どのようにしてボランティア活動をしたらいいのか。
体と心に余裕がないと他者へ配慮をすることができない。
まずは自分の体を健康に保つことが大切。そしてボランティアをする際は、無理をしない範囲でやること。以前「自分にできることは皿洗いくらいしかない」といっていた人に食事会のイベントの際に皿洗いのボランティアをやってもらったことがある。その人の力もありイベントは成功した。なんでもいいから自分のできることからまずやってみることが大事。
いきいきプラザの職員は銭湯に行った際に、おじいちゃんの背中を流してあげているという。
- ボランティアをする上での課題
困りごとを抱えている人と、ボランティアをしてみたい人とをどうマッチングしていくかという課題もある。
インターネットが普及した現代であるが、インターネットだけではなく、地域の人に周知していく必要がある。また身体障害を持っている人は健常者の集まり等になかなか参加しづらいという課題もある。



○グループB

構成は、ボランティア未経験で初めて参加する方、手話サークルで活動している方、障害者を雇用する会社を経営する方など。



- 最近、メンバーが高齢化していて演芸ボランティアが不足しており、楽器のできる方などの需要が多い。
 - 以前加わっていた手話サークルで他団体との統合を迫られたことがあり困った。
 - フォーラムには初めて参加する。最近時間ができたので土日などに活動したい。どうすればよいか？
- 活動を開始するにあたり、まずは、ボランティアセンターに登録してはどうか？

ボランティア活動中の物損等を補償する保険に無料で加入できる。また、ボランティアの情報も入手しやすい。

- パソコン点訳など、自宅のできるボランティア活動に興味がある。空いた時間にできると良い。
- 点訳や音訳の活動には、資料作成の際に守るべきルールがあって、ボランティアセンターや図書館で講習を開いているので、参加してみてもどうか？
- 仲間がいることによって、できることも多い。
グループに加わることで、「いっしょに高めていく」ことができる。
- 出版物を音訳する際、例えばグラフや表・写真などを視覚障害の方に向けてどう表現するか、聞いて分かるように読むことの難しさがある。
- パソコンができれば、点訳・音訳のほか、要約筆記という分野もある。

○グループC

- ボランティアという言葉の敷居が高い。
- グループで活動する際、いつも同じ主だったメンバーが動いている印象。
- 新しいメンバー（若い人、新参者）を取り込む工夫が求められる。
いかに早く組織に慣れてもらうか。
- どういう活動ならできそうか。 どうしたら一歩目が踏み出せるか。
- 入門講座をもっと魅力的にしてほしい。（ボランティアだよりの紙面構成に工夫を。）
- ボランティアだよりに見て参加した人については、施設側からボランティアセンターへ連絡があってもよいのではないか。
- 区民がわざわざボランティアセンターに足を運ばなくても、パソコンなどで参加できると良い。
- 初めて活動を始める人は、まずは無理をせず、自身の住む地域を中心に活動を始め、いずれ活動を広げて、様々な地区の人とネットワークを作っていくのが良い。
- 子育て時期が終わると、親の介護が始まってしまう人が多く、「自分のことで精いっぱい時期が続き、ボランティアに踏み出しにくい」状態。
- 最近、衛生面の問題から「餅つき」がNGとなるなど、コミュニティの楽しみに対して、締め付けが厳しい気がする。
- 若年層を通年で取り込むのは難しい。単発的に（イベント的に）呼びかけることはできないか？



○各グループの発表から

- 初めの一步の敷居が高い。
- 初めは「作業」のボランティアから始めていく。
食事会の皿洗いボラなど、本人の充足感につながることもある。
- 無理なく、楽しんで取り組めるのが理想。
- ボランティア募集は、漫然と行ってもダメではないか。
- どこのボランティア団体も高齢化で大変。ボランティアだよりの内容を改善したほうがよい。
- 好きなことがないと続けるのは難しい。人とのつながりを大切に継続していきたい。
- ボランティアをしている人の高齢化が進んでいる。新しいボランティアを呼び込むには、押しつけではなく、仲間づくり、人と人とのつながりが実感できる環境が大切。
ボランティア経験者に聞くと、講習会が大変だったということを知った。しかしボランティアをするよいきっかけになったという人もいた。



第4分科会 住み慣れた地域での暮らしを支えるボランティア

～高齢の方も、障害のある方も安心して暮らし続けるために～

担当 墨田区社会福祉協議会 すみだ福祉サービス権利擁護センター【参加人数 24人】

【概要】

墨田区社会福祉協議会すみだ福祉サービス権利擁護センターから、成年後見制度や市民後見人についての制度説明があった後に、現役市民後見人2人と地域福祉権利擁護事業で生活支援員をしている2人から、体験談を話していただきました。

その後、グループディスカッションでは「なぜこの分科会を選んだのか」「自分がもし支援を受ける立場になったら支援されたいか」を中心に意見交換しました。

【内容】

○報告

市民後見人さん等の体験談

- ・グループホームに入所している認知症の方の市民後見人になった。名前を覚えてもらうことを目標にして、日々市民後見人として接していた。
名前を覚えてもらった時は今でも忘れられない。
- ・対象の方が、がん末期になった。病院から治療をどうするか等話があったが、市民後見人では決められなかった。
また、本人も認知症で理解ができなかったが、そのまま治療をせずにグループホームで余命を全うした。
深夜に呼び出されたり大変であったが、「頼りにされてよかった」と思っている。
- ・地域権利擁護事業で関わっていた方は、認知症は進んでいるが体が動く方であった。対象者は関与してくれる人が多い方で、訪問看護師や訪問介護士が残したノートで状況を把握していた。対象者に自分の相談事もすることがあり、この関係性は「持ちつ持たれつ」であると実感した。
- ・地域権利擁護事業をしていた。
対象者は役所から届いた文書が分からないため、指示をしたり同行をしたりした。



市民後見人等に質問『どうしてこのような取り組みをしようと思ったか。』

- ・自分自身が介護をしてきて、疑問に思ったところを解消するために。
- ・区報や民法改正の状況を見て、好奇心でやってみた。
- ・月に数時間であれば自分にもできると思った。また、人とのネットワークが増えることや介護の知識が増えることも理由になった。
- ・税理士の仕事をやっている延長線上で気になったのでやってみた。

○ディスカッション

『なぜこの分科会を選んだのか』

- 自分が認知症になるかもしれないので、勉強のために。
- 後見制度について詳しく知りたかった。
- 間違えて参加したが、前に権利擁護に関する仕事をしていたため、ここにきてよかった。
- 「住み慣れた地域」のキーワードが良かった。地域での活動が大事だと思った。
- 「権利擁護」という言葉が苦手である。だからこそ、勉強をして誰かに聞かれたときに対応できるようにしたいと思った。

『自分が高齢者や障害者になって支援を受ける立場になったら、支援されたいか』

- 人に頼る。孤立しないようにする。
- 自分の家庭内の役割を明確にする。
- 自分の立場を受入れられないと思うので、人を頼りたくない。
- 家族に迷惑かけたくないから施設に入りたい。
- 自分の目標は「支援を受けない」ということ。そのために、予防しているし、もし支援を受けるようになって、日頃仲良くしている人たち、みんなで支えあおうと言っている。
- 自分がそういう立場になったら大きな声でみんなに知らせたい。
勇気はあるが、地域を巻き込んでいきたい。
- 自分は絶対に支援を受けたくない。受けないようにするために日頃から考えている。
- 自分が高齢者になったら、施設に入れて欲しい。自分自身が親の介護で非常に大変であった。

『地域で支え合うには、誰が、何を、すればいいか』

- 仲間どうしでやる。そこに子どもや老人はない。みんなでやる。
- 会社に勤めていたときは、地域に関わりがなかった。
老人会や子供会の中層がいればもっと大きな問題を解決できる。
- マンションも地域の問題



■ 発表会 「地域力でつくる 支えあいのまち」



■ 第1分科会

墨田区社会福祉協議会 小古山氏



■ 第2分科会

興望館保育園 五十嵐氏



■ 第3分科会

墨田区社会福祉協議会 堀氏



■ 第4分科会

墨田区社会福祉協議会 藤藪氏



■ 全体の様子

○ 静間氏からの講評

分科会の発表の後、コーディネーターの静間氏から講評をいただきました。

4つの分科会の方に発表していただいた。やはりボランティアは「何かをする」ということも大切だが、それと合わせて「つながりをつくる」「かかわる」ということが基本となっているということがよくわかった。

最初の1歩は難しい。しかし踏み出せば好きなこと、興味のあることなら続いていく。

自分を犠牲にして相手を楽しませるということは無理である。発表の中にも意見が出ていたが、やはり好きなことは続く。「ボランティアをしながら、実は自分も相手の方に話を聞いてもらっている。」ということもある。これはとても大事なことで、一方的にしてあげる、してもらおうということではなく、ケアしている人が癒されるという相互の関係である。

サロンにづくりは、まさにいろいろな人にかかわってもらうことである。とくに最近墨田区でもマンションが多くなり、一人暮らしの高齢者も増えているだろう。しかし、その人たちの出ていくところがない。どこで何をやっているか、情報を持っていない人がたくさんいる。日本の法律というのは分野別にできているが、地域は分野別の人が住んでいるわけではない。そして、そこで生活をしている。その

生活をどう支えていくかが地域福祉の課題である。災害が起きたときも、まず活動するのは地域住民である。そして、そのつながりを一つずつ作っていくことが地域福祉である。しかし、昔あった「地域」がだんだん失われ、引越しても挨拶もなくなっている。それではその中でどう社会をつくっていくか。昔はもともと地域があった。しかし今は地域を作っていく必要はない。

また、「地域」という考え方だが、「墨田区」とか「吾妻橋」などの地区が当然地域である。しかし、本当の地域は地理的な空間だけではなく、そこに住んでいる人たちがいかに関わっているかである。地理的空間と関係的空間（人とのつながり）が相まって、地域となっていく。地理的空間はそこにあるが、関係的空間は私たちが作っていく必要はないものとなっている。これが大きな課題だと思っている。皆さんもいちばん苦労されていることだと思う。そもそも地域はマジョリティ（多数派）とマイノリティ（少数派）が力を合わせて一緒に住み、活動することによって地域になって行くものである。皆様方がまさに原動力となって地域を作っていく必要はない。それぞれの分野で良い。その結果、地域となっていく。これが重要なことである。



社会福祉法第4条に「地域福祉の推進」という項がある。そこでは「地域住民、社会福祉を目的とする事業を営むものは地域福祉の推進に努めなければならない」これはある意味「自治」である。これは私たちがもう一度考えなくてはならないことだと思う。

そもそも人は一人で生きて行けない。つながり、関わりの中で生きている。そこに気づくことが大切である。20世紀最大の哲学者マルティン・ブーバーの言葉で、「人間とは人と共存しつつある人間である」というのがある。常に人と関わり続けるのが人間であるということだが、これはまさに、ボランティア、地域福祉を実践されている皆様が明らかにされていることだと思う。自分もこのような皆さんのいる墨田区に住んでみたくなった。今日のいろいろな方のお話を聞いたと思うが、人と人のかかわりを大切にして、足元にあることから一つずつ活動していただくことを願っている。

■エンディング

墨田区社会福祉協議会栗田事務局長から

「このフォーラムは様々なテーマを通じて地域福祉を考えていくとともに、ボランティア活動に対するご理解をいただき、参加していただく一つのきっかけづくりをということで開催している。

今回は『地域力でつくる 支えあいのまち』ということをテーマに開催した。前回は意見交換の時間が少なかったため、実行委員会でもいろいろ案を出していただき、今回は朗読劇で地域の課題を紹介した後、すぐに分科会に入り、議論をしていただく時間を多くとることにした。皆さんからも活発なご意見を交わしていただくことができたと思う。

日本では、阪神淡路大震災の平成7年をボランティア元年とし、その後ボランティアに対する機運は高まっている。東京オリンピック・パラリンピックを前に、さらにボランティア活動に盛り上がりを見せている。

社会福祉協議会としてはボランティア活動に必要な様々な技能、知識を習得していただくための講座の開催、ボランティアをしたい人、してほしい人のマッチング、ボランティア団体への助成などを通じてボランティア活動の推進を図っている。地域福祉の施策を展開していくにはボランティアの方々の力が大変重要になってくるが、本日のフォーラムが、今後、皆さんの活動の参考になればと思っている。」という話があり、閉会となりました。



■展示ブース

今年度は、すみだボランティアセンターに登録しているサークルと、区関係団体ボランティア団体の展示をしました。

○ボランティア団体紹介コーナー

あしたの会	絵手紙サークルさくら会
おはなしの会つくしんぼ	音訳グループみらい
外国人生徒学習の会	きつつききっず
3SUN ネット墨田支部	手話サークルすみだ
すみだ点訳ひかり会	すみだにほんごボランティア 21
墨田区介護予防サポーター	墨田区ボランティアサークル連絡会
墨田区民生委員・児童委員協議会	点訳きつつき
パソボラきつつき	ふれあいベル・すみだ
朗読奉仕くさぶえ	要約筆記サークルほたる
録音グループかりん	

○地域活動拠点紹介コーナー

地域福祉プラットフォーム ・ ガラドール ・ キラキラ茶家



■その他

1 実行委員会の開催

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの企画・運営のためにすみだ地域福祉・ボランティアフォーラム実行委員会を設置しました。

(1) 第1回

日時：平成29年4月11日（火）13時半から

会場：墨田区役所 123会議室

議題：役員を選出について、フォーラム内容について

(2) 第2回

日時：平成29年5月9日（火）10時から

会場：墨田区役所 31会議室

議題：フォーラム詳細について、チラシ作成について

(3) 第3回

日時：平成29年6月5日（月）10時から

会場：墨田区役所 31会議室

議題：詳細の決定、役割分担について

(4) 第4回

日時：平成29年6月27日（火）10時から

会場：墨田区役所 21会議室

議題：当日の資料、役割分担、アンケート等について

2 実行委員

五十嵐 美奈、鎌形 由美子、栗田 陽、郡司 剛英、小林 実、須藤 正、
頭金 多絵、中村 智世子、三浦 博司、南 睦美、山田 英、吉川 健子
（敬称略：五十音順）

3 広報

区民に広く参加を呼びかけるため、次の事業PRを行いました。

- ・すみだ社協だより（6月号）、墨田区のお知らせ（6月1日号・21日号）
- 社会福祉協議会HP、区HP、チラシ・ポスター配布（区施設、町会、保育園、大学福祉系学部等）、区職員向けイントラネットにチラシ掲示

4 手話通訳・磁気ループ導入



手話通訳をお願いしたほか、一部エリアに磁気ループを配置しました。



5 飲料等の提供

アサヒグループホールディングス株式会社様より協賛品として十六茶をいただき、配布しました。



6 アンケートの実施

当日の参加者にアンケートを実施しました。

アンケートの集計結果は、別紙「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムアンケート結果」のとおり